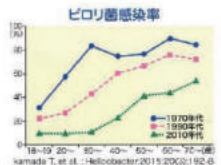


# ピロリ菌とは 感染経路など



ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ H.Pylori）は、胃がん、や胃潰瘍、十二指腸潰瘍の原因となります。ピロリ菌が感染すると胃炎を発症し、それに環境因子、食事因子などが加味され慢性胃炎に進展し、さらに胃・十二指腸潰瘍や胃がんの発生源地となります。

ピロリ菌の感染は胃酸の分泌が少なく免疫力の弱い5歳までに成立します。現代の日本においては感染経路はおもに親などからの「口-口」感染（たとえば口移し）が主体と考えられています。こどもがピロリ菌陽性の場合、両親（ないし祖父母）もピロリ菌陽性である可能性があります。衛生環境の改善もあり日本の年代ごとのピロリ菌保有者の割合は低下しています。



広島大学のグループの報告では胃がんのうち99.5%はピロリ菌陽性の胃から発症しています。ピロリ菌のない胃から胃がんの発症する可能性はきわめて少ないということです。

ピロリ菌の除菌をすることで胃がんの発生を抑制できることが報告されています（Fukase K et al.Lancet 2008;372:392-397）。またなるべく胃粘膜の萎縮が進行しない状態（より若年）で除菌することで将来の胃がん発生が予防できます。

## ピロリ検診の案内



**対象者** 14歳から18歳(中2~高3)  
**検査方法** 便ピロリ抗原検査  
 (感度 96~100% 特異度 97~100%)  
 専用容器に便を採取する(提出は郵送でも可です)  
**費用** 2,000円(組合員以外 3,000円)

ピロリ菌がない  
 ピロリ菌がいる

### ピロリ菌の除菌



## 検査結果の報告

原則的に郵送で行います

陰性の場合 ピロリ菌陰性と判断します  
 陽性の場合 ピロリ菌陽性と判断し除菌療法をすすめます(病院、診療所で説明します)

除菌療法及び除菌判定の費用 5,000円  
 (検査料、診療料込み 組合員以外 8,000円)  
 ※薬剤費は別途かかります。

除菌判定は便ピロリ抗原検査を使用します(治療終了後2ヶ月後をめぐ)

- ※内視鏡検査は行いません
- ※除菌療法のさいは、効果や副作用の説明を行い保護者から同意書をいただきます
- ※なお「ピロリ検診」は20歳以上の方も受診は可能です。検査方法などは同じです